

令和3年度 第1回岡崎市地域福祉計画推進委員会  
会議録

日 時 令和3年8月25日(水) 14:00~16:00

場 所 岡崎市役所東庁舎2階大会議室

出席委員 長岩委員、大堀委員、長坂委員、水野委員、前田委員、長坂委員、茂刈委員、  
加賀委員、木全委員、蜂須賀委員、鈴木委員、杉山委員、本田委員、  
加藤委員、檀委員

欠席委員：野尻委員

事務局 福祉部：中川部長

ふくし相談課：齊藤課長、岩瀬係長、平塚主事、高木主事

社会福祉協議会：小野局長、佐々木次長、平野課長、榊原係長、本主任

傍聴者 なし

1 開 会

2 新委員紹介

3 議 事

- (1) 委員長の選任について
- (2) 岡崎市地域福祉計画事業検討部会の事業報告・関係団体へのヒアリング報告について
- (3) 第4次岡崎市地域福祉計画 施策編(案)について

4 議事録(要旨)

議事1 委員長の選任について

事務局 議事(1)委員長の選任に入ります。本日は本委員会の任期があらたまり、第1回目の会議ですので委員長の選任を行う必要がございます。事務局案として、日本福祉大学中央福祉専門学校校長の長岩委員に引き続き、委員長をお願いしたいと存じますが、皆様いかがでしょうか。

(拍手)

拍手多数ですので、本会の委員長を長岩委員をお願いしたいと思います。それでは、ここからの進行を長岩委員長をお願いいたします。

長岩委員長 あらためまして長岩と申します。先ほど新しい委員のご紹介をいただきましたが、ほとんど留任、継続されていて非常に心強いと思っております。議事に入ります前に、岡崎市学区福祉委員会連絡協議会の長坂会長を職務代理に指名させていただきますのでご了承いただければと思います。また、資料2の要綱第4条にある「事業検討部会」についても、本日は御欠席ですが、野尻委員を部会長に指名させていただきますので、こちらもご了承いただければと思います。

以上2点、職務代理者と事業検討部会の部会長のご指名をさせていただきます

した。

議事2 岡崎市地域福祉計画事業検討部会の事業報告・関係団体へのヒアリング報告について  
事務局より説明

長岩委員長 ご説明ありがとうございました。

2018年にお答えになった内容は去年以降、コロナ渦で変わってきているのではないかという気がします。終息すれば2018年のヒアリング結果なども活かせると思いますが、これが長引くとなるとこの結果が活かせるのかどうか、あやしいところもあるような気がします。何か特別なご説明はないということでしょうか。

事務局 まだ全ての団体のヒアリングが終わっているわけではございませんが、やはり専門職以外の多くの団体からは、会員不足、担い手不足、そういったところがほぼ共通の課題として挙げられているということが言えるかと思えます。また団体活動も、自分のところだけでは継続がなかなか難しいという課題がある、というようなお声を聞かせていただく一方で、他団体との共同、また支え合い、そういったことの可能性を探りたいというようなこともお聞きしています。例えば子ども会の活動に学区福祉委員会が参画をされるとか、おやじの会が学区福祉委員会の活動を一緒に取り組みたいとか、そういったお声をいただくのですが、なかなかそういった所の情報が少ないというご意見もありますので、その辺りのマッチング、情報の行き来をこれからどのようにしていくのかは検討課題かと感じております。

長坂委員 団体のヒアリングですが、新しい団体はあるのでしょうか。予定されているのがどのくらいあるのか、教えていただければと思います。

事務局 今年度、ヒアリングの予定としては5～10団体程度を予定しております。2018年度に既にヒアリングを終えている団体への2回目も含めて考えておりました、それらも含めて実行したいと考えております。

長岩委員長 このヒアリングはいつまでに終わるのですか。

事務局 9月、10月をひとつの目途として考えております。今年度に入りましても新型コロナウイルスの影響で順調に進んでいないところもございますが、どれだけ遅くても10月までには終えるスケジュールで考えております。

杉山委員 令和2年度の取り組みの報告の中で、学校を核とした地域づくりという記載があります。ここで言っている学校は小学校区とっていいのでしょうか。続いて中段、令和2年度の取り組み内容で、コロナ渦でどのようなのができるかあるのに対して、第3回では災害時の備えとして自分でできることとあります。災害においてもコロナにおいても、業務や計画が止まった時に、利用者がどういう段階になったら元に戻る、復帰できるんだ、というのがわかるような目安ができないでしょうか。コロナ渦の扱いと、災害時の備えということで、そういう計画ができればいいと感じました。

事務局 ご質問の件につきまして、記載の学校というのは小学校区とご理解、読み取っていただければ結構です。いただきましたご意見ですが、コロナ渦も災害

時もどちらも危機管理という部分になってくると思いますので、計画の中には是非反映をさせていくべきだと事務局としても考えているところがございます。

### 議事 3 第 4 次岡崎市地域福祉計画 施策編（案）について

#### 事務局より説明

- 長岩委員長 資料 5 をご説明いただきました。何かお気づきのところがあれば是非お願いします。
- 鈴木委員 29 ページの最後「社協の取組 3」で、「終活、人生会議、ACP の普及」とありますが、人生会議というのは ACP の愛称でありまして、これを人生会議と ACP と分けて考えるというのはおかしいのではないのでしょうか。
- 事務局 おっしゃる通り、厚生労働省でも ACP のことを人生会議と呼びましょう、としています。ACP（人生会議）の表現に修正したいと思います。
- 長岩委員長 「アイディアソン」というのは新しい言葉でしょうか。以前からある語句でしょうか。初めて聞きました。
- 事務局 オープン・イノベーション・アイディアソンという、岡崎市だけしか通用しない言葉でありまして、アイディアとマラソンを掛け合わせた造語でございます。行政だけの思惑で動くのではなく、様々な主体の方からご意見をいただきながら、あるテーマについて多角的にアイディアをいただいて議論をやっていこうという取り組みがアイディアソンです。計画書に突然アイディアソンと言葉が出て来ても、なんだこれはとなると思いますので注釈等を入れたいと思います。
- 長岩委員長 市町村によってはこの重層的支援事業の大部分をどこかに丸ごと委託に出して、そこが担っていくというスタイルがあると思うのですが、それとは岡崎市のやり方が違うと理解して良いですか。
- 事務局 この重層的支援体制整備事業に移るときに何を考えたかという、属に言う縦割り組織、行政とか分野の垣根をもっと低くしようということでした。多機関協働事業、要はこの重層的支援体制整備事業の一番基本になるところですが、これを例えば、相談支援事業所や特に市役所内の課の調整を委託して社会福祉協議会でやっているところがよくあるのですが、市役所の中の調整を社会福祉協議会の職員にやらせるのは酷でしょうと考えました。市役所の職員で、ふくし相談課に相談支援包括課推進委員という形で 4 人配置をする、そこがこだわったところです。
- 長岩委員長 今日聞いていて違和感があったのは 33 ページ「多職種による意思決定支援の充実」です。意思決定支援は大事だと思うのですが、意思決定が十分できないとかいう人たちは一定数いるので、多職種でそこをやるということが書いてあるのだと思います。しかし、「社協の取組」「行政の取組」を見ると、そこに必ずしもシフトした事業内容になっていない気がして、これでいいのかと気になりました。
- また、「多職種」という表現を今は盛んに使いますが、多職種というと一人

ひとりの職種になります。しかし実際に動くのは機関であり、その職員として動くので、「多機関」がきちんと協働しないといけないのではないかという気がします。職種として動きたいけども、実際は機関の人間として動くというわけです。そのため機関がOKしないと勝手に一人ひとりの職種が独自判断で動きにくいようなところもあるような気がするので、一度ここはご検討いただければと思います。

事務局 おっしゃられた通り、実は本日、差し替えでこの部分を出ささせていただきました。委員の皆さまに資料を送った後も実はここが一番悩み続けていたところで、ギリギリまでどうしようかと出したのがこの席上配布させていただいた33ページでございますので、宿題にさせていただきます。

檀委員 これを見ているとすごく意欲的な献身的な取り組みだと感じます。我々が困ったとき市役所のどこに行けばいいのだろうというのが従来でしたが、今度からは「ふくし相談課」に行けばいいんだと思いました。しかし、行政が充実するのはいいのですが、市民が、ここにアクセスする、どうやって相談に伺えばいいんだろうというのがわからないのです。困っている人がそこまで行きつくためのアクセスの仕方みたいなものを、次回の実践編に盛り込んでいただいて、市民が必要なところに行って問題解決ができるようなルートを作っていただけると助かるなと思いました。

事務局 まず困ったことがあればどこに行ったらいいかというのはふくし相談課に来ていただければ、課で解決ができなくてもここに行けば繋がりますという形でお知らせをする、ふくし相談課にはそういう機能があります。計画全体でも、委員に言われた通り、福祉へのアクセスや福祉の情報がなかなか伝わっていないと思います。福祉の情報や福祉へのアクセス、そういった情報提供をもう少し寄せたいと思います。次回お見せする時にはそういう情報発信について、もう少し厚くしたいと思っております。

長岩委員長 ありがとうございます。それでは進行を事務局にお返しします。

## 6 その他

事務局 その他にもう一点、追加資料で、高齢者住まい・生活支援伴走支援事業という席上配布した資料をご紹介します。

「高齢者住まい・生活支援伴走支援プロジェクト」について追加配布資料に基づき説明

事務局 ありがとうございます。最後に事務局より連絡させていただきます。今後の委員会につきましては、年度内に2回の開催を予定しています。あらためて御案内いたしますので、よろしく申し上げます。連絡は以上です。

## 7 閉会